

「藤沢地区郷土づくり推進会議」広報紙

明日を創る

発行 藤沢地区郷土づくり推進会議
事務局 藤沢公民館
電話 0466-22-0019
FAX 0466-22-0293

ごあいさつ 議長 廣瀬 宣昭

地域の皆様には、日頃より藤沢地区のまちづくりにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。平成30年度は、4月に郷土づくり推進会議委員の改選があり、新たなメンバーにより地域の意見をいただきながら、地域の課題解決に向けた取組を進めてまいりました。

今後も郷土づくり推進会議の活動にご理解いただき、皆様と共に住みよいまちづくりに取り組んでまいりますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

藤沢地区全体集会

12月15日開催しました。活動部会と推進部会の活動をパネル展示とパワーポイントで説明しました。皆さまの多くのご意見やご提案で、新たな視点に気づき、地域課題の再確認をすることができました。推進会議のさまざまな事業を認識し地域活動で広めたいというお声も頂きました。皆様からのご意見やご提案を今後の取組に活かしていきたいと思えます。全体集会の議事録は、公民館で閲覧可能です。



平成30年度活動報告 (活動部会 & 推進部会)

★交通安全マップの作成

2013年度より継続的に交通量の多い交差点や交通事故多発地などを現地調査や藤沢警察署の交通事故データ入手等のご協力を得て、交通安全マップを作成中です。完成後関係団体に配布の予定をしています。地区内の自動車、自転車の交通事故の発生個所など危険個所を示していますので、ご家庭や地域でご確認いただきご活用ください。

★子どもの見守り活動の推進

学校・家庭・地域各団体と子ども達の情報を共有し三者の連携を図り、登下校時などの子供の見守り活動をすることで、子どもに優しい環境を提供し、いきいきと交流ができる安全・安心な地づくりを進めてまいります。そのため学校や子どもの見守りにかかわる諸団体の情報交換会を企画中です。

★地域の行事に出店



7月29日「遊行の盆」、10月20日「公民館まつり」で、模擬店を出し「鶏のドラム缶焼き」を提供し完売いたしました。「来年も楽しみにしている」とのお声も頂く程、人気定着しています。

焼き担当の委員も、
しっかりと燻されています

★公民館まつりで展示

10月20、21日、活動を掲示説明し、皆さまから多くのご意見やご賛同を頂きました。また、アンケートに快くご協力頂き、ありがとうございました。皆さまのご意見を集約し、今後の活動に活用していきます。



★「藤沢宿」を共に学ぶ取組

11月15日、地域の方々に藤沢宿を知って頂くことを目的に、公民館主催事業の高齢者学級「済美塾」で、藤沢宿についての出前授業をしました。今回3年目のテーマ『藤沢宿の観光案内』で、約70名の受講者が、藤沢宿や観光案内のコツを学びました。初めて知った地域の歴史を孫に伝えたい等好評を頂きました。これからも、学んだことを積極的に地域活動に活かして頂き、地域が主体の活動に発展させていく取組を進めます。2020年開催オリンピックでは、藤沢宿の観光案内のボランティアが増えそうです。



★ 大学との連携



日大くらしの生物学科住まいと環境研究室の『湘南地域における有形文化財の保全活用に関する関係者意識＝藤沢市藤沢宿を事例として～』論文が作成され、その報告会が2月6日に開催されました。部会PTでは藤沢公民館と六会公民館での公民館まつりでのアンケート実施に協力しました。蔵所有者へのヒアリング調査結果も含めて、アンケート結果を共有し、市民の蔵保存に対する意識や蔵の保存活用実態について、専門家、大学生と意見交換することができました。藤沢宿の歴史を残す事に対する市民の関心度や取組の手法について等提起されていて、政策提言の参考にしたいと思います。

川越視察

1. 川越市訪問の目的

12月12日、藤沢宿活性化独自手法の研究のため、参照事例として川越の取組内容のヒアリング(川越市都市計画部景観課職員2名対応)と伝統的建造物群保存地区の見学。

2. 川越のまちづくりのポイント

- ①1971年、住民の活動で大澤家の住宅が市の重要文化財に指定されたのを契機に1987年「町並み保存委員会」(後の「町並み委員会」)を設立した。商店街・蔵の会・研究者・専門家・行政の25名の内約3割が商店街・蔵の会のメンバーである。
- ②この委員会が中心となり「町づくり規範(ルール)」を制定し、伝統的建造物群保存地区の事前審査機関の役割を担い、現在の住民主体の川越のまちづくりに大きな役割を果たしている。
- ③その結果、一番街商店街中心の活動から他の商店街へと波及し、川越全体の活性化へ繋がった効果は大きいとのことである。

3. 川越市のサポート

- ①市は当時取り壊しの危機にあった蔵作りの古民家を住民の強い保存の意向を汲んで買取り、蔵資料館として活用している。他自治体では事例が少ない買取りを実施。
- ②固定資産税の減免制度がある。固定資産税は市の権限で可能なので国登録の建造物の土地は1/5、建物の直下の土地は1/2減免される優遇処置が導入されている。
- ③他の自治体同様、国登録建造物等の修理、修景、景観整備への助成制度はある。



★「まちづくり懇談会」開催

まちづくり懇談会には、旧東海道沿いの地域住民、蔵所有者、藤沢宿商店会の皆様や日大くらしの生物学科住まいと環境研究室の皆様にご出席いただきました。郷土づくり推進会議の取組活動の説明後、皆様から情報提供を頂き、藤沢地区のまちづくりや藤沢宿活性化について熱く意見交換がされました。

1月29日開催の第9回懇談会では、「政策提言」概要について構想共有、藤沢宿まつりでの「お蔵見学会」への協力体制等について話し合いました。来年度も開催しますので、皆様のご参加をお願いします。



「藤沢宿見える化」の進捗報告

国道467号歩道の整備及び北仲通り整備

2016年の「藤沢宿見える化」提案書に基づいて、市及び県土木事務所所管課の支援によって成果を上げてきています。

藤沢宿のイメージを保つ「安心安全な歩道づくり」では、藤沢宿の落ち着いた雰囲気醸成を石畳風仕様の歩道第二期工事として、桔梗屋さん付近から内田商店さん付近まで終了(第一期工事は遊行寺橋から桔梗屋さん付近まで17年12月終了)しました。国道467号遊行寺橋付近から内田商店さん付近まで水捌けが良く歩き易い歩道になりました。(新年度は市民病院入り口付近までの計画)神社、仏閣から国道467号に繋がる「石畳み参道」と今回工事の歩道が一つのトーンとし成果をあげてきています。

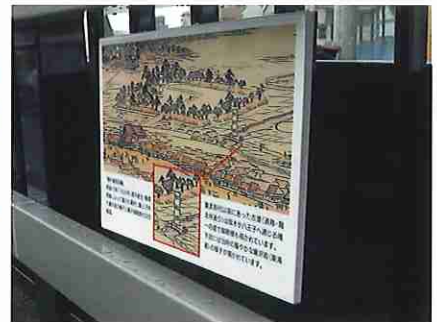
古道北仲通り・妙善寺～佐々木材木店さん前までの道路の遮熱舗装と路側帯カラー化が終了し、御殿橋ガード柵及び2基の絵図取り付けが終わりました。絵図は御殿橋付近を描いた「東海道分間延絵図」からの様子と「藤沢御殿」の様子の2枚のプレートで、御殿橋付近の昔の様子を知る事が出来ます。



R467内田商店さん付近



北仲通佐々木材木店さん付近



御殿橋に設置した絵図

藤沢652号(石川線)拡幅進捗

平成17年3月提言の「藤沢本町駅と周辺整備計画」が進められています。伊勢山法地整備終了に続き、バイパス下歩行者用トンネル通路も完成しました。今後は車歩道整備、自転車駐輪場課題へと新たな段階に入ります。



★藤沢市マスタープラン改訂版に藤沢本町駅周辺が追加

「まちづくり」の柱である「藤沢市都市マスタープラン」改定版(2018年3月改定)に都市づくり上の課題として「藤沢駅や藤沢本町駅周辺、旧藤沢宿、また整備が進められている公共施設等の回遊性を持ったまちづくり」が新たに記載されました。

「藤沢宿活性化と行政施設のあり方」政策提言へ

2019年4月新公民館(労働会館等との複合館『Fプレイス』)の供用開始に伴い、「藤沢公民館今後のあり方」、藤沢宿の中心にある老朽化した「南消防署本町出張所」についての政策提言の提出を考えています。各課題について公民館まつり時でのアンケート、サークル会対象のアンケートをもとに、「全体集会」「まちづくり懇談会」での意見や日大生によるアンケート等を活かしながら検討を進めています。

「藤沢公民館」跡の課題

明治11年高座郡役場から藤沢町役場～藤沢市役所～藤沢公民館と市の発祥の礎であった現建物は3月末で業務終了になりました。地域と共に歩んできたこの地に歴史を残す必要を感じます。

また、藤沢公民館の敷地は市の教育発祥となった「龍驤学校」から始まった場所であり、また市の礎の場所でもあり、解体後にはこうした歴史を残した施設を望みたいものです。近隣町内会も解体後の施設のあり方について市に出された要望も「市の歴史を伝える施設」への提言に結び付けたいと考えています。

多くの方々が学んできた現公民館閉館による地域空洞化を防ぐためにも、迅速な対応を要望します。

「南消防署本町出張所」課題

南消防署本町出張所は昭和43年築で築後51年経過し耐震面から建て直しの時期になります。建て直しの際にはファサード(建築物正面のデザイン)を含めて地域特性を考えた施設にして頂く提案を考えています。

第8回 藤沢宿まつりに協賛



3月3日、冷雨の中、多くの方々が藤沢宿まつりを楽しみました。

お蔵見学会では、所有者の方々のご協力で、登録有形文化財を中心に通常非公開の蔵内や商家、お庭を見学しました。旧家に飾られたお雛さまも寒

稲元屋さんの中庭



そうでしたが、味わい深いものでした。

蔵の特徴を活かしたベーカリーカフェも人気が出ています。

また、藤沢宿まち歩きに参加された方からは、新しいスポットを発見する楽しみがあったの声が多かったです。



委員も事前講習を受けて臨んだ草鞋づくりでは、個性ある作品ができあがりました。

高野部会長が「藤沢宿を語る」、大清水中学校2年の田中美空さんが「白旗神社の名前の由来」と佐藤夏帆さんが「遊行寺と藤沢の関係」をパワーポイントで見事な発表をされました。大人も若者も地域について学んだことを、地域に伝える素晴らしい成果でした。

県立藤沢清流高校生による「藤沢宿絵画展」は、まつり後もしばらくの間済美館で展示しています。



中学生の発表